

CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新業)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)三井アウトレットパークマリニピ	階数	地上2F
建設地	兵庫県神戸市垂水区海岸通 2169-	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、第二種住居地域	平均居住人員	60,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2022年7月6日
敷地面積	86,473 m ²	作成者	武政遼平
建築面積	27,154 m ²	確認日	2022年7月6日
延床面積	51,935 m ²	確認者	武政遼平



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.6

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.2

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.4

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.1

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 バリアフリー新法の移動円滑化基準を満たしている。また、身障者用駐車場を35台設けている。	配慮の概要 プレースを採用し、建物の耐震性向上に配慮した。	配慮の概要 白色を基調とした外壁色とし、海岸沿いの建物として風景に馴染む配慮をしている。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
 (仮称)三井アウトレットパークマリニピア神戸建替計画(東街区)

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							2.8
Q1 室内環境			0.40				2.6		
1 音環境		3.0	0.15	-	-		3.0		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		3.0	0.98	3.0	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.02	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-		2.0		
2.1 室温制御		2.3	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.50	3.0	-				
2 外皮性能		3.0	0.17	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		1.0	0.33	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-		3.0		
3.1 昼光利用		3.0	0.53	-	-				
1 昼光率		3.0	-	3.0	-				
2 方位別開口		-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	-				
3.2 グレア対策		-	-	-	-				
1 昼光制御		3.0	-	3.0	-				
3.3 照度		3.0	-	3.0	-				
3.4 照明制御		3.0	0.47	3.0	-				
4 空気質環境		3.0	0.25	-	-		3.0		
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の材料を使用。	4.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		2.0	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.50	3.0	-				
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	-				
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.4		
1 機能性		3.6	0.40	-	-		3.6		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	売り場天井高さ3.5mを確保	4.0	0.34	3.0	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.31	-	-				
3 内装計画	デザイナーと照明計画、内装計画同時に計画をしている。	5.0	0.34	-	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	床からH900の高さに防汚性の高い仕上げを採用。	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	建物の維持管理に必要な諸室を確保。	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-		3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		-	-	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.25	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.13	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.13	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.25	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	更新間隔を20年としている。	4.0	0.25	-	-				
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	構造体、仕上げを痛めることなく更新できるように配慮。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造体、仕上げを痛めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造体、仕上げを痛めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	構造体、仕上げを痛めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	構造体、仕上げを痛めることなく更新できるように配慮。	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観条例の基準を満たしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 1.00	2.0	0.50	-	-	2.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.4
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.1
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			1.9	0.50	-	-	1.9
2.1 大気汚染防止			1.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車施設、自転車駐車の付置義務台数を満たしてる。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.50	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	